

カーボンニュートラルビジョン2050

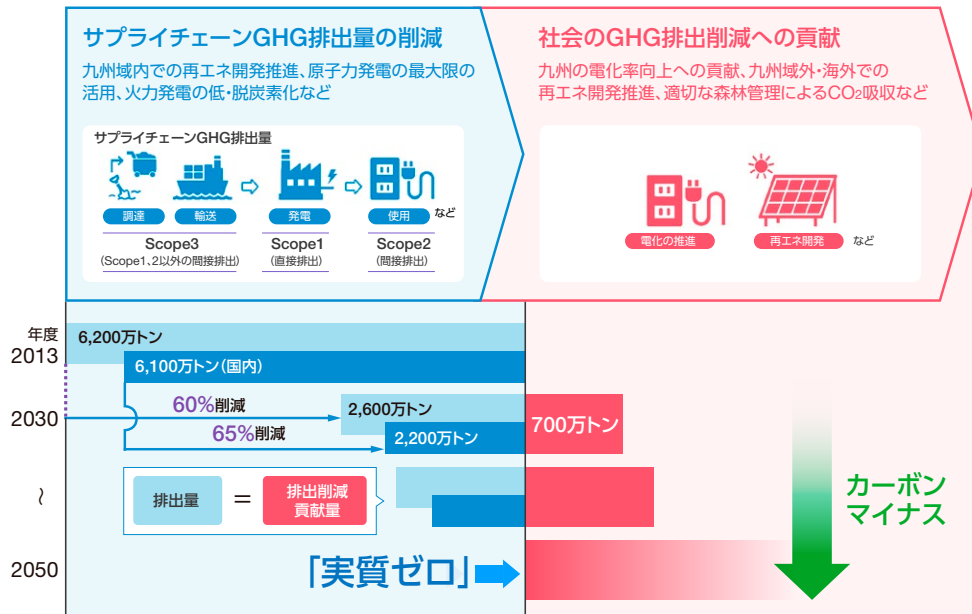
九電グループは、2021年4月に「九電グループ カーボンニュートラルビジョン2050」を策定し、カーボンニュートラルの実現に挑戦するとともに、低・脱炭素のトップランナーとして九州から日本の脱炭素をリードする企業グループを目指すことを宣言しました。

さらに、「電源の低・脱炭素化」と「電化の推進」に取り組む方針を定めるとともに、その実現に向けたアクションプランでは、2030年の経営目標（環境目標）や、KPI（重要業績評価指標）を設定するなど、カーボンニュートラル実現への道筋を示しています。

2050年のサプライチェーン温室効果ガス（GHG）排出量「実質ゼロ」への挑戦や、九州の電化率向上への貢献などにより、社会のGHG排出削減に大きく貢献していくことで、九電グループの事業活動全体の「カーボンマイナス」を2050年よりできるだけ早期に実現していきます。

カーボンニュートラル実現に向けて九電グループが目指す姿

- ・事業活動を通じて排出されるサプライチェーン全体の温室効果ガス（GHG）を「実質ゼロ」にします。
- ・電化を最大限推進し、環境にやさしいエネルギーを安定的にお届けするなど、社会のGHG排出削減に貢献します。
- ・これらの取り組みを通じて、九電グループは「カーボンマイナス」を2050年よりできるだけ早期に実現します。



2030年経営目標（環境目標）・KPI

供給側	【経営目標（環境目標）】サプライチェーンGHG排出量 60%※削減(2013年度比) ※国内事業は65%削減	
	KPI	目標
需要側	再生エネの主力電源化	再生エネ開発量500万kW(国内外)
	火力発電の低炭素化	省エネ法ベンチマーク指標の達成 水素1%・アンモニア20%混焼に向けた技術確立
需要側	【経営目標（環境目標）】九州の電化率向上に貢献 家庭部門：70%、業務部門：60%	
	KPI	目標
需要側	家庭部門	増分電力量15億kWh(2021-2030年累計)
	業務部門	増分電力量16億kWh(2021-2030年累計)
需要側	運輸部門	社有車100%EV化(特殊車両を除く)



上記の経営目標（環境目標）の削減水準を勘案したGHG排出削減目標※が、国内大手エネルギー事業者で初めて「SBTイニシアチブ」の認定を取得しました。

※：・九電グループは、Scope1・2に関するGHG排出量を、2020年度から2030年度にかけて、電力量（kWh）あたり47%削減します。
・九電グループは、販売された電力に起因するScope1・3のGHG排出量を、同じ期間に、電力量（kWh）あたり47%削減します。
・九電グループは、Scope3について、販売された電力に起因しないGHG排出量のうち、エネルギー関連の活動及び販売した製品の使用によるGHG排出量を、同じ期間に、総量25%削減します。

具体的行動計画

2050年のゴールを目指し、特に2030年までの10年が極めて重要であると捉え、「電源の低・脱炭素化」と「電化の推進」を柱として、2030年の経営目標達成に向けた具体的行動計画を策定しました。

電源の低・脱炭素化	再生エネの主力電源化	[太陽光] 開発の推進と、卒FIT電源の電力購入など既存資源の有効活用に向けた対応 [蓄電池・揚水] 分散型エネルギーリソースの統合制御技術の確立・アグリゲーションビジネスの展開 [風力] 有望地点における洋上風力発電を中心とした開発の推進 [水力] FIT・FIP制度等を活用した既設発電所の更新及び新規開発の推進 [地熱] 九州域内外における地熱資源調査を踏まえた新規開発の推進 [バイオマス] 開発の推進と、木質バイオマスの持続的な資源循環に向けた対応
	海外事業の積極展開	各地域のニーズに応じた、再生エネ、低炭素化に資する火力発電及び送配電事業等への取り組み
	原子力の最大限の活用	最大限の活用に向けた安全・安定運転の継続 設備利用率向上に向けた検討を早期に本格化
	火力発電の低炭素化	非効率石炭火力のフェードアウトに向けた対応 水素1%・アンモニア20%の混焼に向けた検討・技術確立 [LNGコンバインド火力での水素混焼、石炭火力でのアンモニア・バイオマス混焼など] カーボンフリー燃料（水素・アンモニア）のサプライチェーン構築に向けた協業可能性に関する検討
	送配電ネットワークの高度化	新たな系統接続による再生エネ等の連系拡大・ネットワークの利用率向上
電化の推進	九州の電化率向上への貢献	
	[家庭部門] 住宅関連事業者との連携強化によるオール電化住宅の普及拡大 [業務部門] 個別提案の強化（設備費・光熱費の試算による経済性、環境性、運用性を提案） [産業部門] ヒートポンプ等熱源転換機器の技術研究と生産工程における幅広い温度帯の電化提案 [運輸部門] 社有車の100%EV化、EVを活用した新たなビジネスモデルの検討 地域のカーボンニュートラル推進やレジリエンス強化に向けた自治体等の協業ニーズに対する、九電グループのソリューションの提供を通じた地域・社会の課題解決への貢献 適正な森林管理によるCO ₂ 吸収、森林資源の活用によるJ-クレジットの創出・活用	

「カーボンニュートラルビジョン2050」（アクションプラン含む）の詳細は九州電力ホームページ（以下）をご覧ください。
<https://www.kyuden.co.jp/> ホーム > サステナビリティ > カーボンニュートラルビジョン2050